

029
302
1

七
11
4

2
1



027
302
1

交知女專
第 11401 號
書 圖

三三

10711
11

序



あまのついでに影を伴七回の恩忌一
あまのついでに月と生れ十日よ
取こして流一玉の風土代まねふ
係よ一頁顔れ借養とくくまにれ
是より一師恩代謝すれ才情とくく
る一は紙やその場と龍祥禪列の
西の国小ありて松よ藤のついで

流し山吹の清け多新野々一自然の
 在巖も此日の神靈に徳化多しんと
 ちのく暮前も曉も捨音偈作して
 波一卷を多向多事おも
 志より

宝曆三癸百春



百韻一順

松又菴のそれも多向そ七園り
 子平坊

阿一の塚も多向そ多海も 奏明

腹さあまもやまもほろり終了 東隱

こころも又突りあれり里中

目一さる童もれ製さうそり 此園

梅あいのぬの時も多 樽先

月も今あはれ峰々明くも 紀外

人は心と哀れまじの酒 戸江

かゝる歌もきくは新未若 里曉

赤霧波も京は浦けぬもや 宇紅

ほろくも障れもこ種は和癖 梅五

一番和も山々出てけり 見免

去て又より暇ももより女子流 俗太

疵をふりくはるり 有季

桔町と山いさよもぬりり乃 芳麻

お永もぬけて鶴々もろく 有縁

月之明く我書物の整理も月め林 六芝

柚味もあはれ何々もたす 東羽

山川と魚おもたす一引も又 昌伴

ひよ本島の半系もたす 鶴夫

喉けい今人の心もむしりて 知六

彼岸すよりう笠かりも第百号

織あはのあ機はくはぬはもきくは 瑠る河が

ふしのあ高たれてあぬはいはな 如に聖に

沖お荒あらはしらぬはり又一は 獅し婿む

舟ふのあらはしらぬはり又一は 息い尔に

呼よぶしせれぬはり又一は 札し梅ばい

ふしのあ高たれてあぬはいはな 八は公こう

さしのあらはしらぬはり又一は 楚そ琉りゅう

自み和わのあらはしらぬはり又一は 驢ろ古こ

観くわん音おんのあらはしらぬはり又一は 瑠る雨う

あらはしらぬはり又一はは 竹たけ塙はたけ

衛えい立たてあらはしらぬはり又一は 李り東とう

油あぶらのあらはしらぬはり又一は 藤ふじ自みづかみ

樓ろうのあらはしらぬはり又一は 水みづ坊ぼく

心こころのあらはしらぬはり又一は 裏うら陰かげ

新あらた言ことばのあらはしらぬはり又一は 杜つばき小こ

座ざのあらはしらぬはり又一は 坂さか下した

多鞭の孫もよるよるせしめて 膚々

多女房のセッお 文呂

肩ヲ背^{大極}の背中を振てやり 陰^{大極}只

以^{大極}子^{大極}まけき^{大極}れ^{大極}極^{大極}も^{大極}その^{大極}ゆ^{大極} 以^{大極}了

あ^{大極}流^{大極}あ^{大極}れ^{大極}人^{大極}よ^{大極}る^{大極}せ^{大極}ん^{大極}を^{大極}この^{大極}も 呂^{大極}周

帝^{大極}の^{大極}あ^{大極}れ^{大極}く^{大極}そ^{大極}お^{大極}加^{大極}減^{大極} 馬^{大極}六

分^{大極}れ^{大極}れ^{大極}お^{大極}息^{大極}々^{大極}月^{大極}の^{大極}新^{大極}より^{大極}も 才^{大極}意

勢^{大極}く^{大極}を^{大極}く^{大極}才^{大極}人の^{大極}あ^{大極}る^{大極}四^{大極} 衣^{大極}帆^{大極}

勢^{大極}や^{大極}時^{大極}や^{大極}は^{大極}ん^{大極}と^{大極}立^{大極}て^{大極}り 柳^{大極}深

あ^{大極}り^{大極}ぬ^{大極}ゆ^{大極}の中^{大極}に^{大極}余^{大極}は^{大極}る^{大極} 帥^{大極}巴

遠^{大極}く^{大極}も^{大極}む^{大極}の^{大極}量^{大極}り^{大極}よ^{大極}き^{大極}う^{大極}う^{大極}これ 乙^{大極}春

ぬ^{大極}く^{大極}も^{大極}苦^{大極}の^{大極}室^{大極}の^{大極}津^{大極}な^{大極}れ^{大極} 李^{大極}程

寝^{大極}れ^{大極}く^{大極}も^{大極}目^{大極}は^{大極}も^{大極}も^{大極}眠^{大極}と^{大極}り 魯^{大極}株

頭^{大極}痛^{大極}は^{大極}さ^{大極}う^{大極}伽^{大極}も^{大極}何^{大極}り^{大極}あ 山^{大極}松

空^{大極}く^{大極}も^{大極}似^{大極}合^{大極}ぬ^{大極}お^{大極}と^{大極}賣^{大極}よ^{大極}兼^{大極}て 鏡^{大極}丸

ゆ^{大極}く^{大極}片^{大極}乃^{大極}も^{大極}は^{大極}ぬ^{大極} 弱^{大極}陰^{大極} 白^{大極}飛

山^{大極}松

大^{大極}六^{大極}四^{大極}

志白又柔黄も落も暗て飛り
改四 仙丈

あ〜〜ま〜く〜ぬ めんりく
見延 丈川

種計の備に氣多ふこほれお
改年 治帆

島もはなみせられ下地 志
緑の 以桂

ささゆ ちり〜
改年 以帆

渡い字 祿子 似〜と 寄かれ
小西卿 島水

折ゆの 白さ〜も 小 鷹之
河 垂平

此 あんた〜に 行く 室也
重壽 甄五

あれ月と文解な〜と〜あ〜い 二狂

花の 一〜〜の 帆さ〜〜海 途彦

左畧

志白 前々略

志白の 氣も あり〜の 志 此 海 六 芝 山崎

志一月の 志白や 塚も 志〜の 栗儿

志〜志 柳の 志〜の 柳 呂伴

今も名の如やく塚(玉椿) 破筆 本支

去跡(深草のほろやほく) 白之

と平(砂子も此ろひろ) 柳(け) 由始

井の(心) 種(も) 知(れ) や 雨(の) 恩(心) 布

何(不) さ(さ) ぬ(ぬ) の(思) あ(り) 紙(考) 以(己)

ふ(し) 世(ぬ) れ(る) 名(れ) と 孫(り) ね(の) 孫(里) 幕(幕)

難(ま) 一(一) 世(も) け(り) の(名) 向(く) 一(一) 炭(充)

山(吹) し 舟(ま) 向(の) 有(備) 一(一) 帆(帆)

七(少) 毛(の) 字(も) 勝(や) 月(の) 一(一) 逸(左)

折(や) つ れ(ま) 向(ま) 境(も) 一(一) 白(芝)

世(の) 草(の) 種(り) 一(一) 乃(も) 一(一) 加納 李(東)

深(ま) 一(一) や(ま) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 登三初 楚(琉)

あ(ら) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 舟(塙)

久(く) 塚(の) 名(向) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 瑤(雨)

昔(時) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 雅(古)

浪(下) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 如(介)

其の教へ習ふぬの御りま 西天 水都

そはむもの徳も分はくく 藤月

ぬるむあや純をよまけて暮る 本隆

何去てゆくらん 黒根 塚北はくく 風塚

塚よとと 教 ても向やむれん 文呂

あーい 唐 くれ思やむの 杜北

其の徳よ向う 大垣 とも 庸々

暗ねとも 半袁

山吹や細ふも向も 呂周

孫お名のまふ 和勇

其の居れくもぬも 薩丹

折れえん 鹿峯

ま 車香

七 凡丁

も向 白支

ま 馬六

世の法はあはぬ遠ははくく小 左付

もも八重の恩ははくくや七幸三 隆正

その御礼ははくくもむの探りも 乙著

法未の女は向はむも 徳有七 梅咲

探り日やむいもむくくく 帰馬 呂琴

葉くくれや圃子とあぬ 艦月 政司

折くくくくも向んむと山はくく 見地 文川

その御は我もむ向む産はくく 本内 逸可

む四くくくくむむの歌はくくも 西御 仙夫

振もやむむの御ありもむ向むく 了小

も向くやむむもくくくも各九あはく 神満

あふ人もむむ探の障りくく 墨野 白坂

七くくせの古葉やもくくむれも 二狂

世の御も此もやのむの巖く那 金顔

此日くくくかぬく掃きもくあて 瓢毛

管節御新やれもむ向やむのむ 洞 葉子

号のありや陀羅尼のま向とも 北芪園中 馬佛

舟法へてや船くや此川柳 文吹

ゆららの樹乳まや木瓦のむ 其末

枝くれーむ 全町道中 玉 椿 葵明

流くむ 系柳 里中

名よ 塚の柳も 吾江

揺りも作む 里中 里曉

んまよ雲ま むの若れ 守紅

まのあ、眺れ 此日 柳五

神おや園の蕨も とひろけ 理巴

陽まや香も 立流 塚のお 紀外

おのじ 作け 塚の 東松

鈔真

常太

夕々枕の風はあやあや急極

はくくは数一争いぬ 中 東隱

如代とふらり又おぼえて 隆巳

哥仙行左略

追加 前略

身向ふ心ふらり人より遅極 聚夕

東長

